

社会資本総合整備計画

小幡地域における観光資源を活用した地域活性化(第3期)(第4回変更)

令和 6 年 1 月

群馬県 ・ 甘楽町

社会資本総合整備計画（市街地整備）

令和6年1月

計画の名称	1 小幡地域における観光資源を活用した地域活性化（第3期）										重点配分対象の該当	○																							
計画の期間	令和2年度～令和6年度（5年間）					交付対象	群馬県甘楽町																												
計画の目標	<p>群馬県甘楽町小幡は、織田氏（織田信長の二男信雄が藩祖）の統治時代に築かれた武家屋敷をはじめ昭和初期までの建造物が多く現存し、市街地の区画は藩政時代の町割りとはほぼ重なり、旧城郭内や用水に利用された石積みなどとの調和により城下町としての風情を色濃く残している。</p> <p>甘楽町はこうした歴史・文化遺産を活かしたまちづくりを推進し観光の振興により地域の活性化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財（歴史的風致形成建造物）の活用を図る。 ・来訪者の回遊性を高めるため案内板・情報板等の整備充実を図る。 ・景観保全のため修景整備を推進する。 ・楽山園周辺において道路の美化や周遊施設の整備を推進し、回遊性及び景観の向上を図る。 ・甘楽総合公園内において、園路整備を実施し、周辺施設への回遊性の向上を図る。 																																		
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県甘楽町のシンボルである名勝楽山園入園者数44,700人（R1）から45,200人（R6）に増加 ・駅からハイキングによる来訪者数130人（R1）から180人（R6）に増加 ・まち歩き拠点である道の駅甘楽の年間入込客数418,200人（R1）から430,000人（R6）に増加 																																		
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (R1当初)</th> <th>中間目標値 (R4末)</th> <th>最終目標値 (R6末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国指定名勝楽山園入園者数を町教育委員会統計数値により調査する。</td> <td>44,700人/年</td> <td>45,000人/年</td> <td>45,200人/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>駅からハイキングによる来訪者数を産業課統計数値により調査する。</td> <td>130人/年</td> <td>160人/年</td> <td>180人/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>道の駅甘楽の入込客数を産業課統計数値により調査する。</td> <td>418,200人/年</td> <td>425,000人/年</td> <td>430,000人/年</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>													定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値 (R1当初)	中間目標値 (R4末)	最終目標値 (R6末)	国指定名勝楽山園入園者数を町教育委員会統計数値により調査する。	44,700人/年	45,000人/年	45,200人/年		駅からハイキングによる来訪者数を産業課統計数値により調査する。	130人/年	160人/年	180人/年		道の駅甘楽の入込客数を産業課統計数値により調査する。	418,200人/年	425,000人/年	430,000人/年	
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																															
	当初現況値 (R1当初)	中間目標値 (R4末)	最終目標値 (R6末)																																
国指定名勝楽山園入園者数を町教育委員会統計数値により調査する。	44,700人/年	45,000人/年	45,200人/年																																
駅からハイキングによる来訪者数を産業課統計数値により調査する。	130人/年	160人/年	180人/年																																
道の駅甘楽の入込客数を産業課統計数値により調査する。	418,200人/年	425,000人/年	430,000人/年																																
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	150.8百万円	A	88.6百万円	B	62.2百万円	C	0百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C+D)	0.0%																							
交付対象事業																																			
A 基幹事業																																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考																		
1-A-1	都市再生	一般	甘楽町	直接	甘楽町	甘楽町小幡地区第3期都市再生整備計画事業		甘楽町	R2	R3	R4	R5	R6	88.6																					
									合計					88.6																					
B 関連社会資本整備事業																																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考																		
1-B-3		一般	甘楽町	直接	甘楽町	案内板・情報板等整備事業	1箇所	甘楽町						1.0																					
1-B-4		一般	甘楽町	直接	甘楽町	楽山園周辺道路美化整備事業	L=480m	甘楽町						13.0																					
1-B-5		一般	甘楽町	直接	甘楽町	大手門周辺公園整備事業	A=5,500㎡	甘楽町						48.2																					
									合計					62.2																					
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考																			
1-B-3	1-A-1（都市再生整備事業）と併せて案内板・情報板整備を推進することにより歴史的風致に対する認識が深められ、回遊性の高いネットワークの形成も図られる。																																		
1-B-4	1-A-1（都市再生整備事業）と併せて道路の美化整備を実施することにより景観が向上し、美しく魅力的な街なみ形成が図られる。																																		
1-B-5	1-A-1（都市再生整備事業）と併せて城下町の入口である大手門周辺を公園として整備することにより景観及び周遊性の向上が図られる。																																		
C 効果促進事業（該当なし）																																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考																				
									合計					0																					
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考																			
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業（該当なし）																																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考																				
									合計					0																					
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考																			

交付金の執行状況

(単位:百万円)

	R2	R3	R4	R5	R6
配分額 (a)	14.7	3.1	6.2	15.3	
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0.0	0	
交付額 (c=a+b)	14.7	3.1	6.2	15.3	
前年度からの繰越額 (d)	0	0	0.0	0	
支払済額 (e)	14.7	3.1	6.2		
翌年度繰越額 (f)	0	0	0		
うち未契約繰越額 (g)	0	0	0		
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0		
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%	0.0%		
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由					

※ 令和2年度以降の各年度の決算額を記載。

参考図面（社会資本整備総合交付金 市街地整備）

